

さいたま 来ぶらり通信

Contents

アジア最大級の規模を誇る 埼玉スタジアム2002 …………… 1,2 本棚ぶらり テーマ「サッカー」…………… 3
第23回現代短歌新人賞/おみやデジタル文学館- 歌人・大西民子- …………… 4

わがまち

はっけん

Sai 発 アジア最大級の規模を誇る 

埼玉スタジアム 2002

さいたま市を語るうえで欠かせないスポーツと言え、やはりサッカーです。

そこで今回は、本市におけるサッカーの歴史を振り返りながら、緑区にあるサッカー専用スタジアム「埼玉スタジアム2002」をご紹介します。



サッカーのまち さいたま

さいたま市役所の敷地内には、「埼玉サッカー発祥の地」という像が建っています。この場所にあった埼玉県師範学校(現埼玉大学)では、1908(明治41)年に蹴球部が創設されました。やがて卒業生が教師となり指導を始めると、サッカーは当時の浦和で急速に広まり、1950年代から70年代にかけて浦和高校、浦和西高校、浦和市立高校(現さいたま市立浦和高校)、浦和市立南高校(現さいたま市立浦和南高校)といった全国高校サッカー選手権大会優勝校を輩出するまでになりました。

その後、1993(平成5)年に日本初のプロサッカーリーグであるJリーグが開幕し、浦和レッズ(浦和レッドダイヤモンズの呼称)が参戦。1999(平成11)年には大宮アルディージャも加わり、2001(平成13)年に誕生したさいたま市は、2つのJリーグクラブを擁する「サッカーのまち」として知られるようになったのです。

「サッカーのまち さいたま」を広く発信するため、本市では2003(平成15)年から、FCバルセロナなど海外の強豪クラブを招き、浦和レッズ、大宮アルディージャとの国際親善試合である「さいたまシティカップ」を開催しています。



「埼玉サッカー発祥の地」



「埼玉スタジアム 2002」とは

昨年11月に開催された「さいたまシティカップ」の会場は、浦和レッズのホームスタジアムである「埼玉スタジアム2002」(通称埼玉スタ)。2002 FIFAワールドカップをはじめ、サッカーの各種選手権大会やJリーグ、東京オリンピックなどで数々の熱戦が繰り広げられてきました。

観客席数は、サッカー専用スタジアムとしては日本最大の63,700席。スタンド中央最前列から試合が行われるピッチまでの距離はわずか14mで、迫力あるプレーを楽しむことができます。また、埼玉スタを象徴する白い大屋根は、かつて飛来した白鷺のつがいが翼を広げる姿をイメージしたものです。

サッカー以外のイベントも多数開催され、地域の交流拠点としても機能しています。

さらに、スタンド下には2,200㎡の備蓄倉庫があり、災害発生時には、消防・警察・自衛隊などの防災活動拠点としての役割も担います。



埼玉スタジアム 2002 外観



埼玉スタジアム2002の見どころ3選

メインピッチ

一際目を引く、鮮やかな緑色のメインピッチ。Jリーグのベストピッチ賞を4回受賞し、今なお質の高い芝生を維持しています。

芝草には、高温でも育ち冬は休眠する暖地型芝草と、寒さに強く冬でも緑色を保つ寒地型芝草の2種類があります。埼玉の地で気候に合うのは暖地型芝草ですが、大きな屋根が日陰をつくり、十分な日照、通風を確保できない埼玉スタジアムでは、プレーに耐える強い芝草が育たないため、寒地型芝草(ケンタッキーブルーグラス、トールフェスク、ペレニアルライグラスの3系統、7種類のタネを混合してまき、育成されたもの)が採用されています。

しかし、寒地型芝草は高温多湿に弱く、夏の維持管理は困難を極めます。そこで埼玉スタジアムでは、メインピッチの地下に埋設されたパイプに夏は冷水、冬は温水を流して根の生育適温を保つ「地温コントロールシステム」を導入。ヨーロッパの主要リーグと共通する点でも貴重な、関東地方で唯一の寒地型の芝生を守っています。

補修等芝生管理を行うのは、経験豊富なグラウンドキーパーたち。試合翌日には10~15人がかりで傷ついた部分にタネや砂をまいて凹凸を埋め、最後は手足の感覚を頼りに均一に整えます。さらに、ピッチを俯瞰できる座席から試合を観察し、傷んだ所を記録して翌日の作業に反映させるほどの徹底ぶり。試合当日に最高のピッチコンディションを提供し続ける努力に対し、浦和レッズの選手から直接感謝を伝えられることもあります。



スタンドから見たメインピッチ

記念展示

2022 FIFAワールドカップ開催を記念して設置された展示コーナーには、2002(平成14)年以降のワールドカップ各大会のボール、日本代表ユニフォームなどが飾られていて、デザインを見比べたり、写真やサインから出場選手を振り返ったりすることができます。展示内容が変わる場合もありますので、詳しくはお問い合わせください。



展示の様子

公園

埼玉スタジアムを中心に約30haの公園が広がり、サクラ、ラベンダー、モミジなど、四季折々の植物を楽しめます。サッカーグラウンドのほか、誰もが利用できる広場もあり、憩いの場として親しまれています。「もみの木広場」では、メインピッチと同様に手入れが行き届いた芝生の上で時間を過ごすことができます。



満開の桜並木

埼玉スタジアム2002

〒336-0967 さいたま市緑区美園 2-1

TEL 048-812-2002

※月曜日(祝日の場合は火曜日)を除く 8:30~17:15

FAX 048-812-2500

<https://www.stadium2002.com/>



参考資料

・『埼玉スタジアム2002』 埼玉新聞社 2002年

・『埼玉スタジアム2002のできるまで』 嶋田和則/著 さきたま出版会 2002年

・『埼玉サッカー100周年記念展示図録』 さいたま市立浦和博物館・埼玉県立歴史と民俗の博物館・埼玉大学 2008年

・埼玉県都市整備部公園スタジアム課ホームページ <https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/a1105/index.html>

・埼玉スタジアム2002ホームページ <https://www.stadium2002.com/>

・さいたま市ホームページ サッカーのまちづくり <https://www.city.saitama.jp/004/006/002/index.html>

取材協力・写真提供 公益財団法人埼玉県公園緑地協会 埼玉スタジアム2002公園管理事務所

本棚 ぶらり

テーマ サッカー



『サムライブルーの料理人 サッカー日本代表専属シェフの戦い』

にしよしてる
西芳照／著
白水社 2011年



今やサッカー日本代表チームに欠かせない専属シェフとなった西芳照氏。本書では、2004年のワールドカップドイツ大会予選から、2010年の南アフリカ大会までの海外遠征帯同の経験を綴っている。印象的なのが、選手の目の前で肉やパスタを調理する「ライブクッキング」。食事とは単なる栄養補給ではなく、選手に喜んでもらうことが大切だという考えから始めたもので、選手の楽しみとなり、また著者と選手の交流の場ともなった。このような選手の体力と気力を養うための工夫が多く記されている。日本代表の一員として力を尽くす著者の真摯な姿勢と、選手への献身的なサポートには感服するばかりである。たびたび触れられる食の好みやオフの過ごし方など当時の選手たちの素顔には、ほっこりさせられる。

『蹴日本紀行 47都道府県フットボールのある風景』

うつのみや てついち
宇都宮徹彦／著
エクスナレッジ 2021年



北は北海道から南は沖縄まで、著者がサッカーを求めて訪ね歩いた旅。本書には、全国のスタジアムや各都道府県を象徴する風景の写真が随所に散りばめられている。それらは写真家としても活動している著者が撮影したもの。どれも躍動感があり、その土地の空気感を感じることでできる美しいものばかりである。各クラブのマスコットの紹介もあり、V.ファーレン長崎のヴィヴィくんは、あざといキャラクターでファンの心を鷲掴みにしたなどの微笑ましいエピソードも盛り込まれている。サッカーファンが楽しむことのできる情報が盛りだくさんなのはもちろん、グルメや観光などのご当地情報も豊富で、各地の魅力を再発見できる一冊である。

『ディス・イズ・ザ・デイ』

つむらきくこ
津村記久子／著
朝日新聞出版 2018年



サッカーの2部リーグチームをめぐる、11の短編＋エピローグ。登場人物たちは皆、自分が愛するチームを応援している。その動機は消えた恋人を探して、一人の選手を追い続けて、文化交流の成り行きで…など人それぞれだ。サッカーを通じて変わる内面や築かれる人間関係、そこから拓かれる未来への展望が物語に描かれている。人はなぜこんなにも他者を熱狂的に応援することができるのか。「人々はそれぞれに、自分の生活の喜びも不安も頭の中には置きながら、それでも心を投げ出して他人の勝負の一瞬を自分の中に通す。それはかけがえのない時間だった。」という言葉が心に残る。

登場するのは架空のチームだが全国各地で試合をするので、読んでいて旅をしている気分にもなれる。

『うつ病とサッカー 元ドイツ代表 GK ロベルト・ エンケの隠された闘いの記録』

ロナルド・レング／著
きむらひろつぐ
木村浩嗣／訳
ソル・メディア 2018年



2009年、32歳で自ら命を絶ったドイツのサッカー選手ロベルト・エンケの記録。彼と親交のあった著者が、彼の日記と関係者へのインタビューを元に綴る。エンケは将来を嘱望された優秀なGK(ゴールキーパー)だった。しかし、うつを発症し、「突然すべてが無意味で絶望的になる」恐怖を抱え始める。期待に応えなければならないというプレッシャー、失敗を許してもらえないのではという囚われ。そして、うつを知られてはならないという思いが一層彼を苦しめていた。

一見華やかに見えるプロサッカーという世界の中で、知らないうちに自分を追い詰めていたエンケ。社会の中でうつをどう考えればよいのか、苦しむ人とどう向き合えばよいのか、我々に問いかけているようである。



ちょこっとゆかり文学クイズ

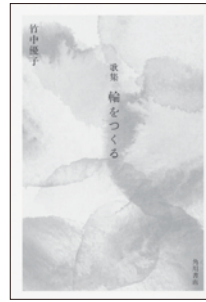
Q: さいたま市ゆかりの歌人、大西民子は働きながら作歌活動を続けていました。旧大宮市に住んでいた頃の民子の職業は何でしょう？

第23回
現代短歌
新人賞

さいたま市が主催し、市民の文学活動の充実と日本現代短歌界の振興を目的に、歌壇に新風をもたらす歌人を表彰してきた「現代短歌新人賞」。その第23回受賞作が竹中優子さんの『輪をつくる』（角川文化振興財団2021年刊）に決まりました。

「だんだん希薄になってゆく現代の人間関係を、シャープな感性と的確な観察でおもしろく切り取っている。ドラマの一場面のような歌もあり、多彩でたしかな作者の表現力は、これから大いに期待できるものである。」

（選考委員講評 さいたま市ホームページより）



『輪をつくる』
たけなか ゆうこ
竹中優子／著
角川文化振興財団
2021年

受賞作品や選考過程については、雑誌「歌壇」2023年3月号(本阿弥書店)に記事が掲載されました。さいたま市図書館でも所蔵していますので、ぜひご覧ください。

おおみやデジタル文学館 — 歌人・大西民子 —



おおみやデジタル文学館

<https://adeac.jp/saitama-omiya-lib/top/>



大西民子は亡くなるまでの40年以上を旧大宮市で歌人として活動した市ゆかりの人物です。「現代短歌新人賞」は大西民子関連の資料が旧大宮市に寄贈されたのを機に創設されました。

さいたま市図書館では、大西民子の写真や作品、自筆の色紙・短冊・原稿の画像、歌集に収録されていない初期の歌の目録、生前の声が聴ける講演録などの資料を「おおみやデジタル文学館」にて公開しています。インターネット環境があれば、無料でどこでも、どなたでもご覧いただけます。大西民子について、詳しい情報をお知りになりたい時にご利用ください。



大西民子けんてーに挑戦！

さいたま市図書館ホームページには、大西民子に詳しくなれるクイズを公開しています。ぜひ挑戦してみてください。



大西民子けんてー
初心者編

<https://www.lib.city.saitama.jp/contents?pid=7376>

大西民子けんてー
上級者編



<https://www.lib.city.saitama.jp/contents?pid=7377>



ちょこっとゆかり文学クイズの答え
(問題はP.3にあります)

A：埼玉県職員。埼玉県立浦和図書館にも勤務していました。

編集：さいたま来ぶらり通信編集委員会 発行：さいたま市図書館

<https://www.lib.city.saitama.jp/> 携帯電話用 <https://www.lib.city.saitama.jp/m/> (下の二次元コードを読み込んでください)

北浦和図書館 832-2321	馬宮図書館 625-8831	与野図書館 853-7816	桜図書館 858-9090
東浦和図書館 875-9977	三橋分館 625-4319	与野南図書館 855-3735	大久保東分館 853-7100
美園図書館 764-9610	春野図書館 687-8301	西分館 854-8636	北図書館 669-6111
大宮図書館 643-3701	大宮東図書館 688-1434	岩槻図書館 757-2523	宮原図書館 662-5401
桜木図書館 649-5871	七里図書館 682-3248	岩槻駅東図書館 758-3200	武蔵浦和図書館 844-7210
大宮西部図書館 664-4946	片柳図書館 682-1222	岩槻東部図書館 756-6665	南浦和図書館 862-8568

事務局：中央図書館 浦和区東高砂町 11-1 TEL 048-871-2100 FAX 048-884-5500

★★編集後記★★

「ちょこっとゆかり文学クイズ」始めました。さいたま市に関する文学を楽しく知っていただけたら嬉しいです。

次回発行予定：8月15日(年3回発行)



もっと身近に、
もっとしあわせに



さいたま来ぶらり通信は、2,000部印刷し、一部あたりの印刷経費は18円です。